

令和7年度第1回中央区教育会議 会議録

令和7年9月30日(火)

18時30分～20時00分

中央区役所6階会議室

【関口中央区教育担当課長代理】

私は本日の進行を務めます関口でございます。どうぞよろしくお願いいたします。着席で進めさせていただきます。

この会議なんですけれども公開の会議ということになっております。傍聴も許されている会議でございますので、傍聴者の方が来られましたら、こちらの傍聴席の方にお座りいただくことになっておりますけれども、今のところ傍聴者の方がいらっしゃっておられませんのでこのまま進めさせていただきます。また会議録につきましては大阪市のホームページにて公開する予定になっておりますのでよろしくお願いいたします。

本日は会議録作成のために本会議の録音をさせていただいておりますので、ご了承の方よろしくお願いいたします。

時間でございますけれども一応午後6時半から8時までを予定しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日につきましては出席の委員さんでございますけれども、関根委員、それから日高委員、それから馬場委員、それから大重委員、岡本委員、黒田委員にご出席をいただいております。山口委員におかれましては先ほどちょっと、ご欠席ということでご連絡いただいております。本日はどうもありがとうございます。

続きまして区役所の担当職員について紹介させていただきます。まず初めに中央区長兼中央区担当教育次長の松田でございます。

【松田中央区担当教育次長】

よろしくお願いいたします。

【関口中央区教育担当課長代理】

続きまして中央区副区長兼中央区教育担当部長の小林でございます。

【小林中央区教育担当部長】

小林でございます。よろしくお願いいたします。

【関口中央区教育担当課長代理】

続きまして、市民活動支援・教育担当課長兼中央区教育担当課長の覺野でございます。

【覺野中央区教育担当課長】

覺野です。いつもありがとうございます。

【関口中央区教育担当課長代理】

そして私が担当課長代理の関口でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

また本日学校関係者といたしまして、上町中学校の校長でございます松井校長先生、それから、南小学校校長の池田校長先生にもご出席いただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは会の始めに松田中央区担当教育次長よりご挨拶をさせていただきます。

【松田中央区担当教育次長】

皆さん、こんばんは。改めまして。座って失礼させていただきます。

本日はお忙しい中、平日の夜にですね、第1回の中央区教育会議ということでお集まりいただき、誠にありがとうございます。私、ご紹介いただきました、中央区の担当教育次長ということで、勤めております区長の松田でございます。本年4月より、区長になりましてですね、この会議を始めるということでございます。これまでもお会いした方もいらっしゃいますし、初めての方もいらっしゃると思います。何卒不勉強でございまして、まだまだ知らないことばかりですけども、どうぞよろしくご指導いただければと思います。よろしくお願いいたします。ちょうど今日で半年に

私なりましてですね、この半年間でいろんな行事とか会議とかですね、学校の方にも、いろんな形でお邪魔させていただいたり、いろんな今日出てくるいろんな施策も、少し見学させていただいたりとかですね、様々な形で、少しでも現場の把握に努めようということでやって参りました。今日はまた皆様からご意見いただけるという場、非常に楽しみにしておりますので、よろしくお願いいたしますと思います。

中央区はやはりご承知の通りですね、都心回帰ということで、タワーマンションたくさん建っております、子どもさんが非常に増えておる。教室が足りなくなってる、運動場が狭い。そういったような、教育環境が危ぶまれるような問題でありますとか、あるいは外国人の方が大変増えておまして、なかなか日本語が不得手な生徒さんあるいは児童さん、児童生徒、保護者の方、そういった方々への対応という、様々な課題が非常に多くございまして、小学校中学校の校長先生始め先生方はですね、日々本当に苦労されてるというのを、改めて敬意を表したいと思います。本当にお疲れ様でございます。

P T Aの皆さんですね、そして学校協議会などで、日々学校の課題に触れておられる方、そして学識の先生、そういったところでですね、今日は、そういった課題を、録音とか、議事録とかいうとなかなか口が堅くなるんですけど、その辺はうまくですね、ぜひ良い意見をいただければというふうに思っております。何卒ですね、よろしくお願いいたしますと思います。

簡単でございますけどもご挨拶に替えさせていただきます。ありがとうございます。

【関口中央区教育担当課長代理】

では続きまして議事に入ります前に、お手元にお配りしております資料の確認をお願いしたいと思います。お手元でございます、本日の次第でございます。それから、資料1としまして、区の主な教育関連事業の令和7年度の状況というパワーポイントの資料、ホッチキス止めの資料がございます。それから資料2といたしまして中央区区政会議委員から寄せられたご意見、それから資料3でございますが、資料3の1から6までの資料がお手元にあるかと思いますが、すべておそろいでしょうか。

では続きまして議長、それから副議長の選出についてですが、中央区教育会議開催要綱第6条に、委員は、その互選により、議長及び副議長を選任するものとあります。委員の皆

様よりご意見はございますでしょうか。

それでは中央区のPTA協議会の役員でおられます、お2人をお願いしたいと思います。中央区PTA協議会会長の関根様を議長に、それから中央区PTA協議会の書記の日高様を副議長に選任させていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは議事の方に入らせていただきます。これより先の進行につきましては関根議長をお願いしたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

【関根議長】

こんばんは。今期議長をさせていただきます関根と申します。どうぞ、不慣れな部分もありますがよろしくお願いいたします。それでは着座にて議事進行させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは早速ですが、まず議題1といたしまして、令和7年度主な教育関連事業の状況について、区役所から説明をお願いいたします。

【覺野中央区教育担当課長】

はい。ありがとうございます。そうしましたら私の方から、議題1について、資料1のほうご覧ください。

主な教育関連事業の状況につきましてご説明申し上げます。着座にて、説明させていただきます。資料1ですけれども主な区の関連事業、7年度の実施状況でございます。まずシート下の段、パワーポイント下の段ですね、子どもの体力向上支援事業としまして予算額184万2千円ということでやっております。8月の末の集約状況でございます。玉造小学校でしたら、3年生から6年生まで水泳の授業。それから南大江は、まだ実施しておりませんが学校と調整中でございます。中大江につきましては、水泳ですとか、リズムですとか、サッカーの授業をやっております。高津小学校につきましては、走り方、サッカー、それからバスケットを実施しております。南小学校につきましては走り方、それからソフトボール投げを実施しております。開平小学校につきましては現在調整中ですが実施をする予定でございます。中央小につきましては走り方、跳び箱、球技ということで、事業者認知につきましてはリーフラスというところが学校に出向きまして、子どもた

ちのところの、体育の授業の補佐と言いますか、1つの時間をとりまして、実施をしているというところですよ。子どもたちの方からも楽しそうに実施しておりますし、区長の方も現場に行っていて、いろいろ、子どもたちの様子っていうのを見ていただいているというところでございます。昨年度から先生向けにですね、講習会の方実施しまして、1回実施するだけなんですけども、その後も子どもたちのある体力づくりに、継続して、何かしらできるようにということで、先生とは協力してやっているという状況をつくっております。

続きまして、次のページ(2)です。民間事業者を活用した課外学習支援事業としまして、寺子屋ちゅうおうというものを実施しております。対象につきましては、昨年度より小学校5・6年を含めて、中学生の勉強の指導をしております。中央区の状況にもあるんですけども、今現在、ちょっと一番下に書かせていただいておりますけども、令和7年8月現在で小学生1名、中学生7名とちょっと見込みよりも少ない人数となっております。令和7年度より3年間で複数年契約としまして、事業者ですね、年度替わりのいわゆる事業者の負担を軽減しております。ちょっと事業の様子なんですけども、かなりちょっと人数がなかなか集まってこないんですけども、一応塾代助成バウチャーといいますか、塾代助成を利用するということを売りにしておりますので、そのバウチャーの中の金額で参加できるということが、可能となっております。

(3)です。子どもの英語力向上支援事業としまして、予算につきましては、100万飛び7万円です。事業の概要につきましては、学校のニーズに応じて、英検ですね、英検へのチャレンジにより学習量向上を支援します。丸の中のところです。令和6年度実績につきましては3中学校の合計、受験者数が360名。受験別にしますと、5級が106人、4級が102人あと準1級がお1人おられるぐらいということで、すごい学校もあるということです。基準につきましては、4級相当の2900円、これを区の方で助成をしておるという事業になっております。四角囲みのところです。令和7年度も全校で活用していただく予定となっております。

次のページに移ります。(4)外国につながる児童生徒エンパワメント事業としまして、予算額292万7千円ということです。事業の概要につきましては、区内小中学校の教職員と連携して、具体的な評価学習、必要な日本語の力を身に付けるため、外国につながる子どもが、学校生活において日常的に安定して学習できるように、サポーターを配置しております。8月の末の集約状況ですけども、サポーター配置数が26名。延べ活動時間数が1,121時間ということになっ

ております。途中経過で、今のところ予算の使用については大体半分ぐらい、49%となっております。どんな仕事してるのかで言いますと、外国につながる児童への日本語の指導補助ということと、教材・テスト作成補助、日本語教室への支援、委員会活動、クラブ活動補助ということで、簡単に言いますと先生が今、例えば、どこのところをしているよということを、教科書なりの指さしていただいて、今ここ読んでるよとか、今問題ここやってるよっていうのを子どもに寄り添いまして、そういう子どものサポート、補助するというのが役割となっております。

続きまして、(5)外国につながる若者・保護者エンパワメント事業としまして、これにつきましても、7年度予算が100万飛び3万3千円でございます。事業の概要につきましては、外国につながる若者や子育て中の保護者等が、社会を担い、自分らしく活躍をしてもらうため、困りごとの相談ですとか、日本の習得等のサポートを実施しております。これ2つ書いてありますけども、外国につながる保護者等への就労につながる日本語取得等の学習サポート、日本語に習熟してないために、就職が難しい、または仕事で困難を抱えてる区内在住の保護者などを対象に、日本語学習や面接対応など、就職就労に必要な学習サポートを提供しまして、6年度、1年間で延べですけども、273名が参加ということになっております。今年度前期ですね、8月までに86名ということで参加となっております。もう1つは、外国につながる若者の集いということで、区内の小中学校卒業した外国につながる若者等が進学や就職、仕事で活躍等の経験について語り、子どもたちが将来について考えるような機会の提供ということで、実施しております。あと利用者の、これまでもちょっと反映しながら、引き続き支援の方を続けていきたいと思っております。委託事業所につきましては、Minamiこども教室実行委員会では実施されております。

次、裏側になります。(6)子どもの貧困をなくすための子どもと学校等支援事業、令和7年度の予算につきましては、457万4千円。子どもの貧困の重点予算としております。事業内容につきましては、区内の公立学校に様々な社会経験を持つボランティアをサポーターとして配置し、教職員との連携や指示のもと、不登校または不登校傾向にある子どもの登校支援。通常の学校活動への復帰支援を細やかに行うということで、小中合わせて8校で実施中でございます。近くのところで8月の、今末現在の集約状況につきましてはサポーター配置数が26名、延べ活動時間につきましては1401時間ということでございまして、学校の方の先生方がこれまで不登校の子の家とか、ピンポンをしに行ったりとか、そういった時間っていうのを、もうサポータ

ーに任せることによって、先生方の時間を、学校の方の時間にまた、費やせるということでございますし、子どもたちが家にいてということでピンポン鳴らすだけでも、安否確認ができるということで、ボランティアの方、有償ボランティアになりますけども、サポーターの方が活躍しているということでございます。

主な教育関連事業の情勢につきましては、今現在こういう形でやっております。ご質問等この関係がございましたら、よろしくお願いします。

【関根議長】

わかりました。今の内容につきまして、皆様からのご意見頂戴したいしたいと存じます。ご意見ご質問ございませんでしょうか。いかがでしょうか。

でしたら、馬場様から順にご意見ちょうだいできますでしょうか。

【馬場委員】

前、見せていただいたサポーター募集とかおっしゃっていましたが、たくさん増えてよかったですね。まだ足りないんですか。

【覺野中央区教育担当課長】

今は十分足りていまして、一応登録をしていただいております。

【馬場委員】

よかったですね。5番のこの外国につながるこの子育て相談、すごく多いんですけど、これは外国の方のご相談ということですか。ということは若い方が多いんですね。

【覺野中央区教育担当課長】

そうですね。子育て世代になりますね。

【馬場委員】

でもこれだけ相談していただいたら、そういう場所があるってということだけでもいいですよ。

【覺野中央区教育担当課長】

そうですね。

【馬場委員】

ありがとうございます。

次、大重様。

【大重委員】

それじゃ、この5番の保護者エンパワメント事業で、中央区としてこの保護者を対象にっていうことで書いてありますが、例えばこれ市の方でも、別に保護者とくるんじゃないし、外国人に對してもっていうのはあるのか。

【覺野中央区教育担当課長】

区の方、子育て世代とはまた別にとっているのはあります。福祉の観点に近いんですけど。

【大重委員】

だからダブルって逆にもったいないということは。

【覺野中央区教育担当課長】

それはないですね。例えば4階の方も同じ事業者にたまたま委託されてるところで、子育て世代はこっちでっていうのも、家族構成とかは、ないんですけど相談の内容につきましては、どちらかに振ることはあります。

【大重委員】

あと1つ気になったのが、最後の貧困をなくすための学校等支援事業というところで、サポー

ターの方が活躍されてて、これの成果みたいなのは数値とかそういうので出てきたりするんですか。

【覺野中央区教育担当課長】

あります。これもともと府の補助事業は、財源としてついたりとか、今現在国の補助がつくようになりましたんで、それを効果測定でありますから、大体来れるようになってるんです。相当数高くなってます。改善というところに入るのが80%。ただ全くその不登校で本当に学校に来ない子どもってというのは、もともと、ちょっと先生に任せるところもありますので、その度合いについてはちょっと、変わってくるんですけれども、一応携わったところでは80%が登校してきているということです。

【大重委員】

この支援の目的っていうのが書いてある通り、復帰みたいなことですね。

【覺野中央区教育担当課長】

はい。

【大重委員】

もう来なくても良い、そうかちょっと見てあげるよっていうことは別でっていうことで、それでの報奨金とか。

【覺野中央区教育担当課長】

そこまではあれですけど、1時間当たりなんぼかは。

【大重委員】

わかりました。期待しています。

【松田中央区担当教育次長】

それは学校の校長先生とかからも、すごく評判がよかった。この前お話をお伺いさせていただいて、本当助かってると。やっぱ先生の方もやっぱり行くというこの行為がすごいやっぱ時間が食うというのもあるんで。すごい評判が良かったです。

【関根議長】

ありがとうございます。

岡本様。

【岡本委員】

2番の寺子屋ちゅうおうですね、すごく良い事業だと思うんですけど、8月時点で小学生が1名、中学生が7名っていうことなんですけど、これって上限とかあったんですけど。枠っていうか、全然なかったんですか小学生っていうのは、今んとこ1名が利用されてるんですね。寺子屋ちゅうおうの。

【覺野中央区教育担当課長】

小学校は30名。

【岡本委員】

30名。何かもうちょっともったいないですね。そう思いました。

幾分かはこれは習う人のお金は出すんですよね。

【覺野中央区教育担当課長】

ほとんど習う人が出す。場所の提供がメインですね。

【松田中央区担当教育次長】

バウチャーでしょ。

【覺野中央区教育担当課長】

はい。塾代助成のやつを使ってもらうという事業です。区長からもちょっとこ入れしなさいと言われてます。

【松田中央区担当教育次長】

いやこの前見に行ったんですよ。小学生来なくて、0ですね。その日はお休みで。中学生も何ていうか、始まって30分ぐらいしてからポツポツ1人、2人ぐらい来て、自習室ですねもうほとんど。

【岡本委員】

でもちゃんと教えてくださる方いらっしゃるんですよ。

【松田中央区担当教育次長】

もちろんいらっしゃいます。もうちょっと何ていうか私の思った感覚とかいろいろあって相談して、やっぱりもうちょっと絞り込んで、何とかこうターゲットを明確にするとかしないと、ね、塾だって、巷にたくさんあるのでね。ここに来る意味をもう少し明確化するお子さんにキャッチアップできるような、何かね。やっぱり、底上げを図るのが目的だと思いますんで、上の人伸ばすとか真ん中の人伸ばすというよりはもう、底上げ目的にしてもうちょっと明確に訴えて。

【大重委員】

逆に中学校なんかでね、学校でこういうふうな場所を提供されましたっていうのが、充実してるのかもしれないですね。

【松田中央区担当教育次長】

でも中央会館でやってたけど、来てたのは東中とか、上中の子が来てたんですよ。びっくりしましたけど、自転車乗って遠くから来てて、ちょっとその辺がわからなかったんですけど。もうちょ

っと、他の区のやり方とか勉強したりして、ちょっとせっかくの事業なんで。

【馬場委員】

やっぱりこれ、中央会館1ヶ所だけで、しないとダメなんですかね。

【松田中央区担当教育次長】

なんかやっぱこの事業者が、あちこちだとちょっと対応が難しいと。どっか1個で、別にここでもいいんですけど、区民センターでもいいんですけど、場所どっちがいいんかなっていうのがあって、それも含めていろいろ考えないといけない。

【馬場委員】

なんかその場所の風景によって入りにくい感じのところ、いろいろありますね。

【関根議長】

ありがとうございました。

黒田様お願いします。

【黒田委員】

今、お話出てるので、この、寺子屋ちゅうおう立ち上げのときからかわらせていただき、その当時から子どもたちどう集めるのかってということで、やってたんですけども。そういう意味では僕は当時話をしたときには、当時は中学校だけでしたね。中学校とどう連携するかってということで、教職員がこの事業を、わかって、自分の学級による子どもたちの先、区長さんおっしゃったように、この子は塾代助成を使った、この寺子屋ちゅうおうへ促そうという働きはできへんかなあって話を当時担当者ともしたことがあって、その時点では、あくまで中央区の事業として進めることで、学校に依頼するのは、作られたパンフレットチラシを、生徒さんたちに、配っていただけたらってところで、教職員が子どもたちにこの寺子屋ちゅうおう、教員たちが強く、これいった方が良く、行きやと先ほどターゲットを絞って、促すってことの部分が、多分今もあまり

できてないのかな、現場では。当時もその教室のスペースがあるんで、何人まで行けるかなって
いうことで、今30でありましたけども、やっぱり30人満たした年は多分ないと。多分ないですよ
ね。

【覺野中央区教育担当課長】

ないですね。

【黒田委員】

なんで、せっかく民間事業者に、しかも、プロポーザルであって、業者を選んでその上で、場を
提供して、しかも、専属のそういう塾の講師の方が配置されてにもかかわらず、せっかくのチャン
スを子どもたちが逸していると。今回、小学校にも拡大したけども、実際、今決まったのは1人、
ということで、登録は何人になってますか。

【事務局】

登録者は2名ほど。

【黒田委員】

中学校はどうですか。

【事務局】

中学校は8名。

【黒田委員】

ということですね。それをやる以上は成果あげないと思うし、さっきもあったように、ここに来
れば学習できて、習慣もついて、学力に大きく寄与するような事業をしていくのであれば、学校
ともうちょっとうまく、生徒なり児童生徒の、声掛けですね。働きかけが、多分チラシ配るだけで
はなかなか子どもたち、中学校特に部活動だったり、帰宅時間との関係もあったり、週1にしる

なかなか足向かないのかなあと思うんですけども。せっかく継続してやってきてる事業ですよ。もう少し、結果として子どもたちが学力向上にプラスになるっていうようなことを、僕も、何か方策ないかなあとも私も私聞きながら思ってるところです。

加えて英語もそうなんですけど、何かないかなと中央区が提案した、校長会で提案して、英語力向上につながったんですけども。4級相当の支援だということが、依然として変わってないんですよ。等級が、上級になっていくと、値段が上がるので、結局、保護者生徒負担が出てくるということなんで、自立っていうのも大事なんですけども、やっぱり、英検の力、今中学校段階で、準2級とか2級とか1級、準1級まで子どもたちがいてるっていうことは、本当大事なことだと思うし、今高等学校の入学者選抜でも、英検の等級によって、得点の加点みたいなのも出てきてる中で、もし本当に英語力の向上ということであれば、一律同等配付もいいんですけども、せっかくの支援事業であれば、その上級を目指す子どもたちへの、支援があれば、ひょっとしたら受ける子ももうちょっと挑戦する意欲も出てくるんじゃないかなっていうことも、これはもう、この話をするために私も、皆さんにお伝えしたところです。

もう1点、4つめのこの、外国人につながる児童生徒ですけども、これも大変な状況ってのが、僕、東の元校長ですので、今も高橋校長ともいろいろ事情を聞いたりとかいろいろ相談を受けるんですけども、東には日本語教室が、個別に設置されましたけど、かなりの人数が増えてきて、もう中国籍の子どもたちが、もうそこでもうチームができてしまっていて、日本語教室で日本語を習って、日本語の習得を目的でやるんだけど、もう中国語で全然コミュニケーションできるんで、なかなか、前に進まないということも仰ってたり、ちょっと僕自身の今の仕事の関係で、いろんな中学をまわらしてもらって、今日も阿倍野区に行っていたら、阿倍野区の中学校も、莫大に人数が増えてて、もうどうしようもない状態ですと、もう授業そのものが、外国人が日本語教室行くのはもうわずかな時間帯で、やっぱ学級に帰ってくる。そこで授業を成立するためには、先生方本当に大変な思いをされてますと。ですんで日本語の支援もそうなんですけど、授業に入っていて、外国の子どもたちがどうその日本の教科書を使った授業に定着していくのかっていうのは、かなり大きなハードルがあるなあということで、どうすればいいかなあということなんかも、常に頭を悩ませてるところなんですね。そういう意味では、サポーターの方が、子どもたちについて、日本語を教えるっていうこととともに、授業に入ったときに、授業のどうサポートをし

ていけるかっていうのは、でもそのサポーターだってかなり負担がかかると思うんですね。数学にしる、理科にしる社会にしる、その教科の内容を、その先生が話してる日本語の授業の内容がわからないのに、席にいてるっていう状態が、実際にあるのに、本当に事業として、いうことになる、もちろん、どこまでの、その効果測定を何で測るのかということがあると思うんですけれども。学校の現状と課題と、サポーターの皆さんの支援によって学校が、確かに助かったところもたくさんあると思うんですけれども、一方でこれからサポーターの方への、負担っていいですかやっていただきたいということの内容もかなり、多岐に渡ってくるんじゃないかなっていうちょっとそんな危惧も、してるところです。これサポーターの方も当然、有償ボランティアだと思うんですけれども大体1200～1300円ぐらいなんですね。区単位でとりわけ中央区は非常に多くなってる区ですし、新たな事業展開ということが今後求められる、学校としては非常にありがたいことになってくるのかなと思うんですけれども、なかなか現状は厳しいなというのは学校の声として理解していただきたいところです。以上でございます。

【関根議長】

ありがとうございます。

先生方からご意見等ございませんか。

【松井校長】

意見っていうより、現状で言えば、上町中学校では今、外国の生徒は、大体1クラスに一番多いところで5名。だからこういう人数のところでは、もうここに2～3人、全く日本語がわからない人がおりながら、こういう日本での会議を今、ここで進めている中で、いますね。だから、大体1割ぐらいが本校でも、その日本語は全くわからない子どもたちがいて、クラスでは一番多いところで5名。ていうことはちょっと今日、共有させていただいたら。

私も授業を見たときには、本当に子どもたちは、真面目に一生懸命日本語がわからないまま受けてるっていう姿は見てるんですけど、そこにやっぱりこう、直にどういう支援ができるかなと。

その辺で、先ほどのこの区がやっていたい様々な事業で、外国につながる児童生徒エンパワメント事業の中でもその、その先ほどの今の寺子屋ちゅうおうでも、どれぐらいの言語に

対応してもらえるのかっていうのが、こないだもちょっとお伝えしていたところなんです。

それぐらい、多言語で塾を対応していただけるような関係がもしあれば中央区としての特色、子どもたちの現状に対応していけるかなという風に感じたっていうのが、それが現状。意見ではない。

【関根議長】

ありがとうございました。

【池田校長】

もう皆様よくご存じでしょうけど、南小学校はもう本当に6割が、外国につながるのあるお子さんなので、日本橋に、もう本当にまだ全然入ってないお子さんもこの夏休み明けにどんどん入ってきて、もう本当に日々、日本語指導含め、学習指導含め、本当に担任の先生方と他の教職員の方々も入ってくださるサポーターの方々もすごいご苦労されてるっていうのを校長として、自分ができることっていうのは何かっていうのを考えると、やっぱりそういう支援もそうですけども例えば人を呼ぶとか、それから学習環境を整えとか、もうそれしか、管理職としてかかわれる部分っていうのはないんですけれど。

やっぱりこの、助成という事業が、本当に学校現場にとっては非常にありがたいことで、そういうサポーターの方が入ってくださる、それから不登校の支援もある、それから外国につながるエンパワメントの事業で人がつく。

それが非常に、助けになってるっていうのは、これもう本当に動かしがたい事実で、ぜひぜひこれを拡大していただくことが、将来、もっともっとこの中央区に入ってくるのがもうこれ完全に読める状況があるので、そういう部分については、手をこまねいて見てるというわけではないですけども、学校としても、いろんな形で皆様の支援を受けながらやっていく必要が、そのための、私だと思ってるので、そういうふうなことを、ちょっと学校現場では、うちの現状としてはそんな感じです。以上です。

【関根議長】

ありがとうございました。

それでは続きまして、議題2の中央教育会議、教育環境課題検討会の設置について区役所からご説明をいただきます。

【覺野中央区教育担当課長】

はい。先ほどちょっと説明しとかなかったんですけども、中央区の区政会議の委員会をされたご意見としまして、第1回、中央区の区政会議ありました。その中で子育て教育グループのご意見がありましたので、ご報告の方さしていただきます。

外国につながる子どもたちに日本語を教える必要があるため、学力を落とさずに報告教えることは難しいと思う。外国につながる子どもは母語も覚えながら日本語も覚えられないといけないうので大変だと、そういった事前サポートはあるのかということで、区の方から、先ほど外国につながる子どもの多い学校には外国籍支援指導のサポーターがおり、例えば南小学校には学校に定着するためのプレスクールの拠点もごございます。そのため外国につながる子どもにとっても安心感があると考えております。また母語につきましては、家庭では母語を使っていたき、学校では日本語で学習してもらうということで教育方針としているところでございますというふうに報告させていただきます。

ちょっと、もう1枚めくっていただきましたら、市による日本語指導が必要な子どもの学習支援のフローチャートといたしまして、こういう形になっておりますということで、資料としてつけさせていただいております。面談がございましてわずか10日間なんですけどもプレクラスというところのある学校へ行って勉強を、特にサバイバルとか、あと、緊急を要するところしか、この10日間で教わりませんので、そのあとちょっと不十分のままではございますけども、在籍する学校で、あとはそこで学ぶという形になっております。日本語の基礎があり、日本語と教科の交互学習という流れになっております。なかなか厳しい状況の、今ご意見いただいたような感じになっておりますので、市のフローでいくとこういう形でなっています。ありがとうございました。

【関根議長】

はい。ありがとうございます。

ただいま説明のありました内容につきまして委員の皆様からご意見を伺いたいと存じますが、ご意見ご質問ございますでしょうか。

【大重委員】

いいですか。

【関根議長】

はい。どうぞ。お願いします。

【大重委員】

プレスクールっていうのがどうなるか、ちょっと、皆にご説明があって、ここにあるように、10日間のね、その生きるための最低限にということで、そうなんだっていうところで、やっぱりこの現状、サポーターの方の管理というお話もありましたけども。やっぱりこういう、インターナショナルスクールじゃないですけどそういうふうな施設を作らなきゃいけないぐらいの規模じゃないのかなと僕は思ってるんですけどね。ちょっととんでもない話っていうふうに聞こえるかもしれないけど、でも実際そうした方が、そうしなきゃいけないぐらいの、危ないかなっていうふうには思うんですけど。どうですか今のまま、拡充ぐらいで、対応できそうか。

【池田校長】

今待ってる状況があります。プレクラスに入れずに、待ってるっていう状況があって、今後おそらく人数がもっと増えてくるっていう予想がもう立てられてるので、うちの今の南小学校に、あるプレクラスに来るお子さんというのがうちの第3ブロックからもういっぱい人が集まってくるんですけど、もう本当に順番待ちみたいなのところも、発生するので、これがもっと増えてくると、本当に待機っていうか、一番その子どもたちの教育権を奪うようなことがあってはいけないというふうに思うので、おっしゃってるように、施設ですよ、そういうふうなところ、拠点になるところができるのであれば、やっていただけたら、少しでもプレクラスに関わってくださってる方の負担は軽減できるかなというふうには思います。

【大重委員】

これはもう、中央区にっていうことではなくてもいいですよ。例えば、中国の領事館に土地があるんやったらそこら辺につくってしまうとか、そういう、例えばね、日本に集まっている、ちょっと、人なり金なり支援しなさいとかお願いとかするっていう。こともしていったほうがいいんじゃないかなと思います。以上です。

【日高副議長】

これは素朴な疑問なんですけど、その教育の観点でどうかという話はあるかもしれないですけどそのポケットクみたいなものがあるじゃないですか。その翻訳の機械、あんなんは実際使われたりっていうのは。

【池田校長】

もうもちろん使っています。

【日高副議長】

だけどそれはあっても足りひんぐらいいてはるっていう。どこまで使うねんとかね、その辺は多分教育というところと言うと、難しいところあるけど。基本的なコミュニケーションすらとられへんようなところやと、使わざるをえん場面もあるんかなとは思いますが。なんかそういうなかなかそのサポーターっていうマンパワーだけでは、もう対応し切れへんぐらいのところまで来てるんちゃうかなあというのは今、お話を聞いてると非常に思うんですけど。こんだけいろんなその情報化やそのDXやって言うてる中で、もうちょっとある意味、機械を活用してうまくコミュニケーションが取れるっていうことも、考えていかないとなかなかこうね、うちらでも、子どもの同級生で急に中国語しかわからん子どもさんがこられて、何とかその身振り手振りでコミュニケーションは取ってるっていうのは聞いたんですけどね。だけど、やっぱりなかなか本質的な、コミュニケーションが取れるかっていうとそうでもない状況があって、子どもだからそれでもね、たくましくやっていますけど。

【大重委員】

インクルーシブインクルーシブとか言うけどやっぱりインクルーシブ教育につなげようとしてやっぱりそこまで、ある程度段階にきてないと、インクルーシブにもなんないからね。

【日高副議長】

ちょっとだからその辺はやっぱりこんだけ、その外国に関わる子どもさんが多い中央区ならではのことをね、何かやっていただいたら、より特色が出るのかなとは、思うんですけど。それはなかなかこう、確かにフローあるしそれはこの通りで、やること自体がおそらく難しいやろうという、今のお話だと思いますんで。

【関根議長】

その他いかがでしょうか。

ちょっとすいません。さっきの話の続きなのかもわかんないですけども、私のところの会社でもインドネシアの子の技能実習生で雇ってまして、同じようにね、最初わからへんから、スマホの翻訳とかポケトークとか使うんですけども。やっぱり細かいところのニュアンスってのがやっぱ実は全然伝わってなくて、どういう意味ですかってなって向こうの翻訳機でやった日本語とこっちでやった翻訳で微妙に差異があったりするんですよ。その時に、特に子どもさんとかないと、まだその大人と違った、まだそこまで成熟してない解釈の中でのことなので、やっぱり、今言ったその続きになるんですけどもそういった、できればいいなとはたしかにおぼろげに今お聞きしながら思いました。どんどんどんどんそういう方が増えてくるので、またそこで育った人たちが結婚して子ども生まれたら、また同じように、ね、減ってることは多分なく、必ず増えていくと思いますので、確かにこういったことは良いなと思いました。

【松田中央区担当教育次長】

まさしくこの次の議題が、そういうことも含めた、議論をもうちょっとこうやろうという、ご提案ご提案ちゅうかこの、議題になっておりまして、はい。まだなかなか答えが見えないんですけど、

まさに非常に貴重なね、良い、議論だなと思っておりました。次のときもそんなことを念頭に置きながら。

【関根議長】

議題2の中央区教育会議、教育環境課題検討部会の設置について区役所からご説明をお願いいたします。

【覺野中央区教育担当課長】

ありがとうございます。

資料の3の方をご覧ください。中央区の教育環境の整備ということで、これ連長連絡会の資料に使わせていただいたものなんですけども、区内の小中学生は20年間で2倍となっております、さらに増加傾向にございます。2005年、平成17年でしたら、2699人あったところが、令和7年、今年度ですね、5307人となっております。増え方の方ですけども、区内北部で児童急増となっております、ちょっと書かせていただいたんですけども、特に開平校下の、校地の方が狭隘であるため校舎の増築は困難で、校下の地域からご要望で、隣地の方の確保ということをご要望が出ておりますが、いまだできておらず、児童数増加と教室不足、あと工期を勘案しまして、南小校区にある元南高校グラウンド跡地に新校を設置することにしたということでございます。令和13年4月の開校予定です。6年ぐらい先になってしまいますけども。工期と設計と時間がかかるということでございます。新校の通学区域につきましてはまだ検討中なんですけども、現在の開平校区と同じとしまして、この仮称新校準備委員会を設置しまして就学制度ですとか、校名ですとか、効果等検討していくことになります。また開平小については、来年度入学から学校選択制の対象外としまして、過密状態ですね、今通う子どもたちの教育環境を守るために、過密状態の緩和を図るということで、学校選択制の方対象外としております。あと南小学校に関しましては新設校による影響予測されるための学校保護者地域のご意見をお伺いしながら、南中を中心とした南エリアの学校の魅力化ですね。教育環境の充実について取り組みを進めるということで、今後も皆様のご意見を聞きながら、中央区の子どもたちにとってより良い教育環境を整備していくということで、連長連絡会なんかで説明させていただきました。

この次のラウンドテーブルというものを資料3-2ということでつけさせていただきまして、なるべくその役所の中にこだわらずに、オープンな場で、区長も出席いただきまして、学校の地域の保護者、それから教育委員会の担当課長とか来まして、皆さんでちょっと話をさせていただく場を作りたいということで考えております。これをこの教育会議の部会としまして、この後でまた添付しております要綱の方改正しましてですね、部会を設置して、この部会をラウンドテーブルにあてたいというふうに考えております。

あとはちょっとそれぞれの課題等でございますが、資料3-3に各中央区内の学校の状況、やっぱ子どもが、もう北側南側にこだわらず子どもが減ってることはないんです。学校に通う子どもの入学率とかかかってくるんですけども、今の状況を受けまして要は、課題といたしまして、保有教室、学校の建物、普通教室が何個あるか、それから今の学級数、令和7年度の学級数と児童数、それから5年後の学級数と児童数ということで表にさしていただいております。ちょっと、まず、単純に学級数の方が、保有教室数を上回る、5年後に上回るとしまして、網掛けの方さしていただいております。今お話ございました通り開平小学校につきましては、令和12年には、22学級の見込みとなっております。現在保有教室、建物施設としましては17しかございませんので、この備考欄にございますような、教室不足、会議室とか、パソコン教室ですね、PC教室、特別教室を、普通教室へ一旦改造するなどして、一時的に対応するということが必要になっております。あと玉造小学校につきましては横ばい。南大江小学校につきましては、5年後には、あくまでも推計なんですけどもちょっと1000を超えるような状態ということになってます。ただ、令和9年度には1024ということとなっておりますので、もうずっとちょっと1000のギリギリのところまで推移すると思われております。中大江小学校につきましては25保有ありまして、5年後は23クラス。教室不足には陥りませんが、人数自身はやや増えるということになっております。高津小につきましては、保有教室数が9クラス、教室がございます。ここも令和7年と令和12年、5年後も、人数はほとんど変わりません。

学級数の方も変わりませんが、この適正配置対象ということで、後にちょっとまた説明資料付けておるんですけれども、市の条例におきまして、単学級ということで、いろいろ、この人数をふやすですとか。

ちょっと、配らせてもらいます。

(追加資料配布)

今ちょっと、資料を追加で配らせていただいているんですけど、学校配置の適正化について、2番目ですね、適正配置の必要性小規模校における課題としまして、大阪市教育委員会がつくっている資料でございます。これは大阪市の市立学校活性化条例の中で取り組まれているものでございまして、小規模化における課題として、例えば、児童生徒にとってはクラス替えができないため人間関係が狭くなり固定化しやすいですとか、あと友達をつくったり揉めたり仲直りしたりする力をつける経験が少なくなる。あと男女比がアンバランスになるということで課題といたしますか、そういったことで、せめて、複数の2クラス以上が欲しいということで、そのあと、先生にとってはどうかとか、学校運営上ではどうかというふうに、ここに書かれておるような次第でございます。

これがすぐに統合というわけではないんですけども、今、次の資料をちょっと見ていただきたいんですけども、資料3-4ですね。市内の状況でございます。この適正配置というところで、適正配置対象校を含むといたしまして、その下のところですねこの区分1が複式学級を有する小学校。市内に5つございます。区分2ですと、複式学級ですね、1の小学校を除き、児童数は120名を下回り、今後とも児童数は120名以上に増加する見込みがない小学校、区分3ですね、現在児童が120名以上の状況であるが、今後、児童数が120名を下回ることが見込まれる小学校。囲んでおるんですけども、区分4ですね。1~3、上記の区分1から3の小学校除きすべての学年において単学級であり、今後ともすべての学年において単学級であることが見込まれる小学校。区分5が現在7学級以上11学級以下の状況であるが今後すべての学年において単学級であることが見込まれる。区分6が、今後7学級以上、11学級以下の状況になることが見込まれる小学校ということでございます。中央区の場合、そこに区分4という形で、123でもないんですけども、適正配置の区分ということで、一応区分4ということで、高津小学校と南小学校がここにあがってきてるという状況でございます。で、あと、次中央小学校でございます。元の3-3でございますけども、中央小が保有教室数が普通教室29で、5年後がプラスですね、24ということで、備考欄にございますように令和2年度960が一番です多くなっています。そのあと、748ということになっています。

次中学校の状況でございます。東中の方が相当増えております。保有教室数は26、5年後

の推計で30学級になります。生徒数が1191ということで、結構、300、ぐらいの生徒が増えるような見込みとなっております。南中学校これもちょっと先ほどの資料3 - 4の適正配置校の区分6としてあがってきているという状態です。状況につきましては、5学級以下ということで、区分6です。今後4学級または5学級であると見込まれる中学校で、ここであがってきている状況でございます。

その右側、ちょうど1の次ですね2課題と挙げておりますので、またコメント、ご意見をこの表を見てうかがえたらなあと考えております。

資料3の5と6につきましては先ほどの部会の設置ということで、要綱の方の改正をいただくということでご了承いただきたいということで、よろしくお願いします。

特に資料の3 - 3なんですけども、課題について各校のちょっと委員さんからご意見、この表を見て、ご意見をちょっといただきたいなと考えておりますので、よろしくお願いします。

【関根議長】

3についてですか。

【覺野中央区教育担当課長】

はい。3-3の課題のところについて。

【松田中央区担当教育次長】

それ以外でもいいでしょ。

【覺野中央区教育担当課長】

それ以外でも構いません。

【関根議長】

皆さんの意見を伺うんですか。

【覺野中央区教育担当課長】

はい。

【関根議長】

先ほどの内容につきまして皆様からございますでしょうか。

【黒田委員】

大丈夫ですか。

【関根議長】

はい。お願いします。

【黒田委員】

まず3 - 3ということがあったんですけども、まず最初の資料の3 - 1ですけども、これ昨年度の最後のこの教育会議でも、参考資料として、見せていただいたと思うんですけど。ただその中で、今回新たにということで、元南高校のグラウンド跡地に新校として設置することは決定したんでしょうか。

【覺野中央区教育担当課長】

予定ではありますけども。

【黒田委員】

あそこのグラウンドの敷地面積どれくらいですか。

【覺野中央区教育担当課長】

4200ぐらいです。

【黒田委員】

で、開平のそもそもの校区がそのままの同じ校区であると。

【覺野中央区教育担当課長】

そうですね。

【黒田委員】

エリアによってどちらに行くかみたいな感じでしょうか。

【覺野中央区教育担当課長】

希望ですね。おそらく近い方になると。

【黒田委員】

それは前回話題になってたんですけども、その時に、南大江をかなり今の資料3 - 3を見ても、児童増で教室もパンパンだという状態で、いわば南大江小学校校区も、やはり隣接にされたところに新校ができる。校区割りそのものも、もっかい見直す必要がないのではないかっていう意見もあったような、気もするんですね。一方で、同じ隣接してる南小校区の、子どもたちが、新校に行きたいという、希望も、可能性はあるからそれを何とかせなあかんということが1つの課題として出てきたんですけども。今のところそこまで南大江の問題を含めた、校区、そもそもの開平地域の校区の問題とあわせて、新たなその校区編成まではまだ議論に至ってないという状況ですかね。

【覺野中央区教育担当課長】

そうですね。

【黒田委員】

4000平米やったら、あまりおっきくないですね。

【覺野中央区教育担当課長】

そうですね、バランスをうまくやらなかったら、またもうちょっと同じような現象が起こる可能性がある。

【黒田委員】

これもこれからまた議論されて今のところ令和13年の開校予定になってるので、どないかしていくのかなと思うんですけれども、やっぱり子どもたちの教育環境もそうなんですけども、これまで長らく4地区の小学校で培ってきたコミュニティの問題とか、教育内容の問題とか、地域の皆さんがやっぱり、学校を愛していただいて、審議いただいたことを、どう維持しながら、ご理解賜るのかということが非常に大きいのかなと。

重ねて中学校の立場で言うと、東中が当然校区中学校になっていくと思うんですね、東中学校が。で、東中学校の課題の3 - 3になるんですけども。私が校長のときに第一期工事をしまして、給食室もつけてもらって、2階3階4階5階まで教室、特別教室等については6階に、多目的教室をつくっていただいたんですけども、その時点で4地区の、小学校区の代表の方に入ってもらって、校舎建設委員会を立ち上げたんです。もちろん大重さんも入ってもらって。その時に、グラウンドの問題もありますし、1000人を超える学校であの学校にあの敷地に、それだけ子どもたちを詰め込んでいいのか、根本的に、子どもたちの教育環境を初め教育内容を充実して維持できるのかということにも議論が当時あって、当時地区の委員の皆さんは、PTA会長をはじめ、地域の連長さんをはじめたくさん入っていただいたんですけども、絶対に第二期工事はさせないっていうぐらいの、勢いがあったんです。それ今の第一棟が向こうの、庁舎の奥に突っ込んで建ててるんですけども。次の校舎増設って書いてますけど、学級数のための増設で教室は維持できるということで、当時もそういう提案が教育委員会からありました。でもそれをつくってしまうと、今のグラウンドが確保できない、狭くなるということで、かなり地域の皆さんが大反対されました。その時は、1期はもうやむなしやけども、特別教室を全部移して、今の本館を全部普通教室に転用して、1学年1フロアに、学級数が入るまで頑張ろうということで、今高橋校長もそれを引き継いで7クラスまでは入るようにしてるはずなんです。いろんな教室を第一期で

つくっていた新教室に特別教室を移していったって何とか今、現状保持してるんですけども。

今のこの30学級超えていったってこの次の課題で言うともうそれも、本館ではもう教室をまかなえないので、教室等が要るって第二期工事って話が、とんとん拍子に行くとは思えないんですね。これからどう進めるか、地域の皆さんのご意見なり、いただきながらなんですけれども、当時、いろんなところを、探しはったんですね。地域の方も。区役所にもいろいろ働きかけもしながら、難波宮の後の教育委員会の保有してる土地とか、大阪城公園の駐車場とか、いろんなところ挙げてね、でも全部だめやったんです。結果そのまま送りバンドで何も進展しないまま、おそらく今の現有敷地内に、これやったら、普通教室を増設することで進んでるんですけど。

これはもう校区の小学校の今の大きな問題、開平の問題とあわせて、これはもう東中にも必ずくる問題なんで、合わせてどうしていくのかっていうことは、地域の皆さんの声をいただきながら、ご理解と、また、子どもたちにとって、やっぱり最善の利益を追求した、学校運営、学校をつくっていかなあかんと思うんで、器ができたからいいでしょうという問題じゃないのかなあと私はずっと、当時校長の時からも教育委員会の担当にも言うてましたし、区役所のこういう会議のときにも区長さんにも当時もお話させていただいて、何とか力を出して欲しいということで、いろんなところの敷地をあたってもらって、何とかめど立ったこともあったんですけど、結局頓挫してしまってね。それはずっともう、僕が退職して丸5年過ぎましたけど、事態はどうも変わってない。さらに悪化というか、さらに人口増に伴う生徒増に。もちろん小学校はその現象が起こって中学校に当然来るということで、かなり厳しい状況を今後どう乗り越えていくかっていうことは、本当に至難のわざだなど、資料見せていただいて思ったところです。

なんの発展する意見でもなくて、申し訳ない。

【覺野中央区教育担当課長】

いえ、すいませんあのね、ちょっと普通教室の校舎を建てるのではなくて、ちょっと普通教室増設と言ったんですけど、黒田先生がおっしゃったように、特別教室を普通教室に移していったってというかその最中ですよということで、今ここに書かせていただいたんです。

【黒田委員】

ただこの将来の数を見ると、もう教室足らないんですよ。じゃあその時、もう新棟の特別教室も多分全部埋まってしまうんで。今も全部それ順番に普通教室に転用して。

【覺野中央区教育担当課長】

新棟にできた特別教室のところを旧棟の特別教室をつぶして普通教室に転用して対応してるんで。

【黒田委員】

もう和室もついに潰してしまって、やらのあかん状況になってるんで。

【覺野中央区教育担当課長】

それプラス、子どもの数が増えておりますので、学習カリキュラム、例えば第2理科室をほんまやったら普通は作らなあかんところが、辛抱してもらわなあかんとか、そういうふうな状態ですとか、あと体育館に1000人ほんまに入るのかとか、そういう課題が出てきます。

【大重委員】

今ので大体ね、こうすべきだっていうのは見えてきてて、多分考えてくれてはると思うんですけども。今ここでね、こう、こうでしょっていうのもどうかなとか思いつつ。やっぱりねその中学校にも問題があるということであれば、だからちらっと言ったように、と思いますしね。やっぱりその南大江さんもそうやろうから。

課長も、現状の案みたいなやつ幾つか、今、いえるところとかあるんですか。

【覺野中央区教育担当課長】

東中ですか。

【大重委員】

他、この新校的なことに關してね。

【覺野中央区教育担当課長】

ほとんどないんですけど、何かつくって本当に情報開示しながら、このラウンドテーブルって進めていきたいと思ってますんで。そこでやっぱご意見いただきながら、ただちょっとどこまで出せるかというのは、教育委員会と交渉しながらこれ出していいかというふうな形でちょっと進めていかな仕方がないかなと思っております。

【黒田委員】

ここはね意見を述べる場ですので、何か決定をする場ではないということも、そのあたりも私ども踏まえながら、ご意見述べさせていただいてるんですけども。最終的には教育委員会の判断になりますし。

【大重委員】

そういうところ言えばさっきね、外国人の、対応の関係と同じようにやっぱりここも、ここに新しい小学校をつくるっていうんでなしに、この辺の既設の学校なり、土地を含めるなり、取得するなりして、小中一貫だったり、もし校舎が離れるのであれば、義務教育学校とか、そういう形で、進めていけば、そっちに行きたいっていう子たちが増えることによって、小中義務教育学校にすることで東中じゃなくても、中学校そっちだよということになる。それで、この辺の人たちが、南大江と言わず中大江、玉造の方でも、というか、そういうふうにしてれば中央区が、全体から来ていいよぐらいにしてみるか。もしすんごいつくるのってなんていやそこまでしたら増えすぎるみたいになっちゃうかもしれないですけど。その辺の規模で考えていただいた方がありがたい。

【関根議長】

その他皆さんよろしいですか。

課長。

【覺野中央区教育担当課長】

いいですか。

大重委員からもありましたように確かに児童数の変動がやっぱりありますので、この先、少しちっとずつ減ってきますと、今度は新しく、もしもそのつくった学校というのが、小さくなってしまいうというか、足らなくなってしまったりする可能性もありますので、やっぱりその校区については本当慎重に考えていかないと思っています。おっしゃったように、小中一貫校でしたら、区内全部が校区になりますので、その辺学校選択制を使わずとして希望できるという利点があるんです。その辺をちょっとお示ししながらまたラウンドテーブルを進められたらと思います。

【関根議長】

すいませんちょっと質問を変えても良いですか。

中央、上町校区のことなんですが、私そっちに住んでますので、これ今、例えば、このこっちの校区だけに限らずマンションを建設してるとたくさんあるじゃないですか。そういった部分ってのは加味、この推計には加味されているんですか。

【覺野中央区教育担当課長】

おっしゃる通り、加味されてます。

区役所でわかる部分は、0歳児から5歳児のことになるんですけども、この一番下の星マークに書いてますように、マンション建設については入居開始年度に、下記の割合を乗じて加算してるということで。児童につきましては戸数の1.5%。100分の1.5ですね。幼児につきましては4%を各年別に、加算しております。タワマンの場合ですね20階建て以上については、対象戸数6割に減らしまして、それは価格とか、家族、ファミリー向けではないということで6割に減して、つくった数字になっております。

しかしやっぱり見込みですので、ブレはあると思います。

【関根議長】

わかりました。

【関根議長】

いやもう我々今度こっちの校区に住んでる人は、谷九が丁度マンションを建設中で。

【覺野中央区教育担当課長】

それは入ってないんです。一旦そこはもう谷九のところはまた増えてきます。

【関根議長】

それをちょっと知りたかったので。

【覺野中央区教育担当課長】

ここちょっと、中央小学校。856、5年後750ぐらいに減ってますけども、また増えてくることになります。ただ、校舎の保有教室数29というのは、多分、何とか持ちそうな感じです。

【関根議長】

特に深い意味がなかったんですけども。

【覺野中央区教育担当課長】

はい、その通りです。マンション建設があって。

【関根議長】

よろしいですか皆さん、その他。

【日高副議長】

いいですか。

僕玉造なんですけど、横ばいとなりつつも、例えば、もう少し例えば国の方針で1学級当たりの児童数を減らしましょうみたいな話が出てきたら、結構ぎりぎりのところで推移してるからそれだけでたちまちこう、学級数が増えたりとかね、あと今のマンションの話でも想定しないようなところ

るが急にこう、1区画、別々の人の名義やったところが一つに整理されて、またマンションができたりとかってというのが、日常茶飯事に起きてる状況でいうと、なかなか中央区は、南・高津のお話はあるんでしょうけども、同じような環境があるのかなあと。

玉造でも今年実は運動会をずっとコロナの何かやってなかったんですけども、区が連携協定を結んでいただいているってこともあって城星学園さんの、運動場をお借りして、運動会をするっていう、運びにはなってるんですけども、あれだって結局校舎をつくってしまったがために校庭が小さくなって、なかなかそういう運動会ができないので、校長先生にお聞きすると、朝礼とかも、なかなか一堂に会してっていうのが、もうかなり難しいんで今はほとんどWebでやってるといようなことを聞いてます。

だから本当にこういう教育環境の整備ということでいろいろ努力していただいているっていうのが、わかるんですけども、親の立場としてはやっぱりこう、当たり前の教育を子どもが当たり前に受けれる環境をね、きちっと整備するっていうのも、大人に求められてる非常に大事な責任ではないかなというふう思いますんで、子どもがやっぱ大人の事情で煽りを受けるということはないようにして欲しいなというのは非常に強く思いますし、やっぱりそういう、保護者の理解、地域の理解ももちろんあると思いますんで、そういう形でいうとこういうラウンドテーブルみたいなところでいろんな議論がされていくんやと思いますけれども、やっぱりそういうところを活用することで、何かこう地域なり、いろんなことが一方的に分断されるっていうことがですね、ないようにだけをしていただきたいと思いますし、大重さんさっきおっしゃったようにそういう小中一貫とか、特色ある教育をするっていうことで、何ていうかねブランディングみたいなことを図ることで注目されるというか、行きたいなと思うような学校をつくるっていうのも1つの考え方だと思いますんで結構あの中の島の小中一貫校なんてすごい人気があっていききたいと言っているのが中央区の子どもさんでも多いというようにも聞いたりしてますので。

だからそういうところ、やっぱり親御さんで求められるいろんな水準とか、教育のあり方みたいなところはあると思いますんで、そういうところに寄り添いながらどういう学校づくりをしていくのか、環境を提供するのがええのかっていうことは、少し念頭に置いて検討していただくとよりこ理解が深まっていくんかなという風に思いますんで、その辺りはぜひお願いしたいなと。

【松田中央区担当教育次長】

この前見に行ってきましたね、中之島。キラキラしてますね。

【日高副議長】

あそこもそんなに広くないけどね。場所もええし。

【松田中央区担当教育次長】

もうでも人気で、北区の学区の方しか来れないんですよ。もう1年生と7年生は、もうエリアの子しかこれなくなっちゃったみたいですね。

【関根議長】

当時この中央小学校の方でも募集あって、いけるって第一次何とかって書いてあっても結局全然いけずでした。

【松田中央区担当教育次長】

やっぱりかなりお金も格段にかけたということで、聞いてますんで。でも新しいとこって、やっぱり、今つくと魅力ある学校に努力してやってるなっていうのを本当に見て思いました。

先生はねそら、教育委員会の先生が基本的に集まってくるわけですから、そんなね大きなあれはないと思うんですけど、やっぱり設備っていうのは違うなと思いました。そういう意味でも、やっぱりこう、南なんか特に、新しい、新設校と南小とか南中、高津どこまで入れるのかも含めてちょっとどう、特色をつけて、上手くこう、それが人数のこのね、バランスにも寄与して、南エリアの学校の、何ていうか、活性化にもつながれるような方法ってのはさっき大重さんがおっしゃったような話なのかもしれないし、それをどこが受けるのかっていうので、変わると思うんですよ。

やっぱり、あんまり新しいところに人気出しすぎるとまたどんどんこうなってくるから、なかなか南エリアのね南小のあれは、やっぱり南小どうなるんやっていう心配もね、結構されてますんで、ちょっとそこはご意見いただきながら、みんなで考えていきたいと思っています。

ありがとうございます。

【関根議長】

わかりました。

皆さんもよろしいですか。貴重なご意見ありがとうございました。議事についてはこれで終了とさせていただきます。

不慣れなところもありましたが、進行にご協力いただきありがとうございました。後の会議進行について区役所をお願いいたしますよろしくお願いします。

【関口中央区教育担当課長代理】

はい。

関根議長始め委員の皆様、長時間にわたりどうもありがとうございました。

委員様の任期でございますが、PTAの関根様日高様のお2人はちょっと任期が別になっておるんですけれども、2年任期であります現在の委員の皆様につきましては10月の末をもって、任期末ということになっております。ということはご意見をいただくのが、本日の会議で最後ということになります。これまで貴重なご意見をたくさんいただきましてどうもありがとうございました。

また馬場委員と大重委員でございますけれども今現在2期目ということでございます。要綱によりまして2期までの任期ということになっておりまして、一応今回、4年間ということになっております。4年間にわたりましていろいろ貴重な意見いただきましてどうも本当にありがとうございました。

それでは最後に区担当教育次長の方から一言ご挨拶を申し上げます。よろしくお願いします。

【松田中央区担当教育次長】

今日は長時間にわたりまして、貴重なご意見賜りましてありがとうございました。

またこれまで、これで任期満了となりますお二人につきましては、この会議の委員としては一旦あれなんですけど、引き続き、地域の中心的役割を担っておられますんで、ご意見はいくらで

も仰っていただければ、お伺いする機会はいくらでもあると思いますので、引き続きお願いしたいなと思っております。

この場のためにではなくて、本当にこの、よい学校づくりのための場だと思っておりますので、継続的にまた、この部会、ラウンドテーブルをちゃんと実行にのして、良いものにしていくというのは、非常に大事なことだと思っておりますので、引き続き皆様のご指導いただければと思います。

今日はどうもありがとうございました。

【一同】

ありがとうございました。

【関口中央区教育担当課長代理】

それではこれもちまして本日の会議を終了させていただきます。

本日は本当にありがとうございました。

【一同】

ありがとうございました。